

鶏肉情勢

令和5年12月8日 更新

全農チキンフーズ(株)

| 項目 | 内容 |
|----|--|
| 供給 | 1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年10月末実施)によると、10月の推計実績は処理羽数63,509千羽(前年比101.0%)、処理重量191.1千ト(同100.7%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.2%上方修正、処理重量は0.8%上方修正された。夏場の暑さが落ち着き気温が下がったことで、増体・育成は比較的順調であったと思われる。商品化率が落ちていた内臓類も徐々に廃棄が減ってきているとのこと。 (2) 11月の計画は処理羽数は全地区で前年を上回る予想となっており、処理重量は関東地区、近畿・中国・四国地区、南九州地区が前年を下回る予想となっている。 12月8日までに、4県4例、家きんより鳥インフルエンザの発生が報告されている。今後の拡大が懸念される。 工場の人員不足については技能実習生が来日するようになったことで、少しづつ解消されており、加工品(切り身・手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復している。 |
| | 2. 輸入 (1) 財務省11月29日公表の貿易統計によると令和5年10月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲0.6千トの47.8千トで、国別ではブラジルが前月▲1.6千トの29.8千トでタイが+1.0トの16.5千トとなり、ブラジルは前月より減少しタイは増加となった。前年同月の実績に対しては▲6.1千トとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、鳥インフルエンザによる輸入停止措置の影響によりブラジルからの輸入量減少が11月まで見込まれるため、11月が39.5千ト(前年比80.7%)、12月は46.3千ト(前年比104.6%)となっている。ただし、ブラジル産の国内在庫は潤沢となっており、12月には輸入量も回復することが予想されるため、不足感はない状況が続くと思われる。タイ産についても引き続き安定した輸入量が予想される。今後の国産鶏肉への影響を注視したい。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から+3.6千トの44.4千トで、国別では中国が+0.7千ト、タイが+2.7千トとなった。前年同月の実績に対しては+0.3千トとなり、前月比・前年比ともに上回る結果となった。タイの生産は引き続き安定しており、10月実績は増加となった。価格については依然として高騰している状況である。外食についてはインバウンド需要等で回復しており、中食・総菜向け等の引き合いも安定的に継続している状況である。 (3) 財務省が10月27日に公表した貿易統計によると10月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より18.6%下降し、鶏肉調整品は前年同月より12.5%下降した。国別ではブラジル産の価格が331円/kg(前月比9円高)、タイ産が406円/kg(同1円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジル・タイともに下降した状況である。ブラジル産は一時輸入停止措置が解除された影響が懸念されたが、10月実績はやや上げ基調となっており、国内市場価格も上昇傾向となっている。タイ産についても国内市場価格は下げ基調となっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。 |
| | 1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年10月の生鮮肉消費(購入)は数量4,146g(前年比91.6%)、金額6,599円(同98.7%)と、数量・金額とも前年を下回った。鶏肉は数量1,502g(同95.4%)・金額1,587円(同103.5%)・単価105.7円/100g(前年同月+8.2円)と、数量のみ前年を下回る結果となった。調理食品が金額12,881円(同102.3%)、外食が14,705円(同106.8%)となっている。生鮮品の購入量は相場高等の影響を受け牛・豚・鶏とも前年を下回る結果となった。調理食品においては光熱費の高騰や猛暑による調理敬遠が働き順調に推移している。外食においては、イベント開催の回復や、入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、回復傾向にあると考えられる。 |
| 需要 | 2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年10月の食品売上高は全店ベースで前年比105.9%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同105.0%、既存店ベースは同103.9%となった。また、畜産部門の売上高は約1,272億円で全店ベース同102.2%、既存店ベース同101.0%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、10月は暖かい日が続いたため、鍋もの商材は伸び悩んだ模様。イベント需要の回復や、光熱費の高騰による調理敬遠を追い風に総菜部門が引き続き好調であったとのこと。 畜産部門においては、精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉・鶏肉に需要のシフトが続いている。牛肉は、相場高で苦戦。豚肉は国産の高騰が落ち着いたが、安価な小間切れ・挽肉が好調。相場の安定している鶏肉では値ごろなムネ肉が好調。ハムやソーセージなどの加工肉は回復傾向。節約志向の高まりにより買上点数は減少しているが、相場高による単価の上昇により売上高は前年を超えた状況が続いている。 |
| | 3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年10月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比101.9%の4.8千トとなった。うち国内品は同90.5%の3.6千トと前年を下回り、輸入品については同163.6%の1.2千トと前年を上回った。 |
| 在庫 | 1. 令和5年10月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推定期末在庫では国産29.8千ト(前年比118.0%・前月差▲0.2千ト)、輸入品130.9千ト(同102.7%・同▲1.6千ト)と合計で160.7千ト(同105.2%・同▲1.8千ト)となった。 |
| | 2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、10月の出回り量は国産145.6千ト(前年比100.0%・前月差+8.1千ト)、輸入品49.4千ト(同103.6%・同+0.2千ト)と合計で195.0千ト(同100.9%・同+8.3千ト)となった。11月以降の国産在庫については、年末商品は消化されるが、前年の在庫が少なかったことから、前年を上回ると予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、入荷量は、11月まではブラジルのサンカタリーナ州において鳥インフルエンザが発生した影響により輸入量が減少、12月は緩和されたブラジル産に加え、タイ産の輸入量が増加すると見込まれている。出回り量は11月は前年をわずかに下回るが12月はかなりの程度上回る予測であることから、11月の期末在庫は前年同月をやや下回り、12月はわずかに上回ると予測する。 |
| 相場 | 1. 令和5年11月動向 (1) 令和5年11月の月平均相場は、モモ肉673円/kg(前月差+24円)・ムネ肉374円/kg(同+5円)正肉合計で1,047円/2kgと前月を29円上回り、前年同月を78円下回った。モモ肉相場は月初665円、月末は678円となり(昨年は月初710円、月末750円)、前月に引き続き、前年の相場を下回った。 生産においては、11月になり気温も下がり、比較的順調に推移している。モモ肉においては、鍋シーズンの到来により、売り場も広がり動きが出てきた。ムネ肉は加工原料や安価な商品として、生鮮品・冷凍品とも販売は順調である。また、安価な商品として、手羽もとを特売する量販店が増え、生鮮品・冷凍品とも不足の状況が続いている。 相場はモモ肉は上げ基調であり、11月も引き続き高水準を維持した。 |
| | 2. 見通し (1) 12月の生産量は、前年並みの計画である。今年は暖冬の予測が出ており生産は順調に推移していくと思われる。ただ、現時点で4県において家きんより鳥インフルエンザが発生していて、今年度も警戒が必要である。 朝晩の気温も下がり、売り場には鍋用スープ・つまみれ等がならび鍋シーズンが到来している。モモ肉・モモ肉切身の売り場も広がり、特売を打つ量販店も多くなった。ムネ肉においても、節約志向による値頃感や鍋用つまみれの原料として生鮮品・冷凍品とも引き続き順調に推移すると思われる。 以上のことから、モモ肉相場は上げの月平均700円、ムネ肉相場はもちあいの月平均370円と予測する。 (2) 11月に家きんより、3県3例の鳥インフルエンザの発生が確認された。前年には14道県22例発生しており、抑えられてはいるが、今後、冷え込みが強くなっていくことから、拡大が懸念される。 12月に入り、月中の気温も下がり、鍋ものおいしいシーズンがやってきた。モモ肉相場も上げ基調になり、需要期に向けてさらに上昇していくと思われる。ムネ肉においても、安価でありムネ肉を使用するレシピが増えたことから12月に入っても順調に推移している。 今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は底堅く推移すると思われる。前年には及ばないが、鶏肉相場は引き続き高水準で推移していくと思われる。 |

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

| | R4年累計 | | R5年10月推計実績 | | R5年11月計画 | | R5年12月計画 | | R6年1月計画 | |
|------|---------|--------|------------|--------|----------|--------|----------|--------|---------|--------|
| | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 |
| 入雛羽数 | 774,648 | 100.1% | 70,397 | 101.6% | 63,534 | 101.3% | 68,916 | 100.8% | 66,697 | 101.6% |
| 処理羽数 | 737,217 | 100.2% | 63,509 | 101.0% | 63,081 | 102.4% | 68,164 | 101.8% | 61,053 | 101.6% |
| 処理重量 | 2,224.1 | 99.9% | 191.1 | 100.7% | 190.3 | 100.5% | 206.1 | 100.7% | 184.1 | 101.0% |

※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

| 品名 | 鶏肉 | | | 調製品 | | | 合計 | | | 比率 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|-------|------|------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 鶏肉 | 調製品 |
| R3年累計 | 595.8 | 535.0 | 111.4 | 481.0 | 469.5 | 102.5 | 1,076.8 | 1,004.5 | 107.2 | 55.3 | 44.7 |
| R4年累計 | 574.5 | 595.8 | 96.4 | 525.8 | 481.0 | 109.3 | 1,100.3 | 1,076.8 | 102.2 | 52.2 | 47.8 |
| R5年5月 | 51.7 | 42.5 | 121.7 | 35.4 | 42.1 | 84.1 | 88.1 | 92.9 | 94.8 | 58.7 | 40.2 |
| R5年6月 | 57.7 | 52.2 | 110.6 | 39.7 | 46.2 | 86.0 | 97.5 | 98.4 | 99.0 | 59.2 | 40.8 |
| R5年7月 | 46.7 | 45.6 | 102.3 | 39.5 | 43.8 | 90.1 | 86.2 | 89.4 | 96.3 | 54.2 | 45.8 |
| R5年8月 | 56.0 | 47.4 | 118.1 | 40.4 | 47.8 | 84.5 | 96.3 | 95.2 | 101.2 | 58.1 | 41.9 |
| R5年9月 | 48.4 | 46.8 | 103.4 | 40.8 | 44.3 | 92.2 | 89.2 | 91.0 | 98.0 | 54.2 | 45.8 |
| R5年10月 | 47.8 | 53.9 | 88.6 | 44.4 | 44.1 | 100.6 | 92.2 | 98.1 | 94.0 | 51.9 | 48.1 |

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

| 履歴 | 数量 | | | 金額 | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R3年平均 | 1,526 | 1,565 | 97.5 | 1,410 | 1,440 | 97.9 |
| R4年平均 | 1,510 | 1,526 | 99.0 | 1,448 | 1,410 | 102.7 |
| R5年5月 | 1,485 | 1,476 | 100.6 | 1,530 | 1,403 | 109.1 |
| R5年6月 | 1,455 | 1,433 | 101.5 | 1,492 | 1,375 | 108.5 |
| R5年7月 | 1,361 | 1,439 | 94.6 | 1,422 | 1,345 | 105.7 |
| R5年8月 | 1,363 | 1,372 | 99.3 | 1,411 | 1,309 | 107.8 |
| R5年9月 | 1,424 | 1,492 | 95.4 | 1,487 | 1,386 | 107.3 |
| R5年10月 | 1,502 | 1,574 | 95.4 | 1,587 | 1,534 | 103.5 |

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

| | モモ肉 | ムネ肉 | 計 |
|------|-----|-----|-------|
| H27年 | 639 | 336 | 975 |
| H28年 | 621 | 255 | 876 |
| H29年 | 626 | 315 | 941 |
| H30年 | 595 | 282 | 877 |
| R元年 | 585 | 243 | 828 |
| R2年 | 614 | 269 | 883 |
| R3年 | 641 | 313 | 954 |
| R4年 | 662 | 348 | 1,010 |

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

| 履歴 | 国産 | | | 輸入品 | | | 合計 | | |
|--------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R5年5月 | 29.3 | 31.2 | 94.2 | 127.5 | 115.7 | 110.2 | 156.8 | 146.9 | 106.8 |
| R5年6月 | 28.6 | 30.5 | 93.7 | 133.6 | 119.1 | 112.2 | 162.2 | 149.6 | 108.5 |
| R5年7月 | 30.6 | 28.9 | 106.0 | 129.6 | 121.1 | 107.0 | 160.2 | 150.0 | 106.8 |
| R5年8月 | 32.0 | 28.5 | 112.3 | 133.3 | 121.2 | 110.0 | 165.3 | 149.7 | 110.4 |
| R5年9月 | 30.0 | 25.8 | 116.3 | 132.5 | 121.2 | 109.3 | 162.5 | 147.1 | 110.5 |
| R5年10月 | 29.8 | 25.2 | 118.0 | 130.9 | 127.5 | 102.7 | 160.7 | 152.7 | 105.2 |

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

| 品名 | モモ肉 | | | ムネ肉 | | | 正肉合計 | | |
|--------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|---------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R4年平均 | 662 | 641 | 103.3 | 348 | 313 | 111.2 | 1,010 | 954 | 105.9 |
| R4年度平均 | 702 | 627 | 112.0 | 371 | 317 | 117.0 | 1,073 | 944 | 113.7 |
| R5年8月 | 674 | 649 | 103.9 | 383 | 354 | 108.2 | 1,057 | 1,003 | 105.4 |
| R5年9月 | 646 | 667 | 96.9 | 374 | 364 | 102.7 | 1,020 | 1,031 | 98.9 |
| R5年10月 | 649 | 697 | 93.1 | 369 | 376 | 98.1 | 1,018 | 1,073 | 94.9 |
| R5年11月 | 673 | 729 | 92.3 | 374 | 396 | 94.4 | 1,047 | 1,125 | 93.1 |
| R5年12月 | (700) | 773 | 90.6 | (370) | 417 | 88.7 | (1,070) | 1,190 | 89.9 |
| R6年1月 | (710) | 805 | 88.2 | (370) | 422 | 87.7 | (1,080) | 1,227 | 88.0 |

※()は見直し